

松本キャンパスのはじまり

—信州大学誕生 その2—

大学史資料センター

福島正樹

松本キャンパスの変遷

1919年

あがたの森：松本高等学校

1944年

松本高等学校校舎・松本中学校校舎等：松本医学専門学校

松本市立病院：松本医学専門学校附属医院
松本医科大学附属医院
信州大学医学部附属医院

旭 1946年

旧陸軍第五十連隊兵営：松本医学専門学校
(1948年松本医科大学)

1949年

信州

1949年

大学開学

1953～60年

文理学部

(旧陸軍第五十連隊兵営)：医学部
附属医院

人文学部・理学部 1966

1950年代～1970年代

人文学部・理学部

松本キャンパスへの統合

1973

1969

竹内松次郎(1884～1977)

松本医科大学長、信州大学創設事務責任者、信州大学医学部長
東京帝国大学医学部名誉教授

1884年 誕生(福井県丹生郡大虫村)

1907年 東京帝国大学医科大学入学

1912年 東京帝国大学医科大学助手

1917～20年 文部省外国留学生(血清学・免疫学) 米英独伊
仏に留学

1922年 東京帝国大学教授(医学部細菌学教室初代教授)

1937年 欧米出張 ドイツ国ゲッチンゲン大学創立200周年
記念式典など参列。→「学都松本」

1944年 松本医学専門学校校長として松本に赴任

1945年 東京帝国大学定年退職

1946年 旧陸軍歩兵第五十連隊駐屯地を松本医専
キャンパスとして確保

→キャンパス植樹

「官舎之記」

「学都松本」

1948年 松本医科大学学長

信州大学実施準備委員会委員長

信州大学創立事務責任者→

1949年 信州大学初代医学部長

1949年 福井大学学長(～1954年)

1977年 死去(92歳)

松本医学専門学校と 校長竹内松次郎の キャンパス構想

1944年2月：松本医学専門学校設置

校長：東京帝国大学医学部名誉教授竹内松次郎。

校舎定まらず：松本高等学校 → 松本中学校

戦後・・・

1946年2月：竹内松次郎、物部長野県知事と会談

旧兵営・練兵場を松本医学専門学校の用に供する件

1946年4月：旧歩兵第五十連隊跡地に移転

「構内地域植樹の事」

1946年12月15日：校長官舎に移転

→ 1947年1月5日 漢詩「官舎之記」

1947年7月：随筆「学都松本」

構内地域植樹の事

1946年4月

(昭和廿四年己丑四月三十四日に亘る。)

- 一、戦時中並に戦後にかけての山林の亂伐に鑑み、今春に在りて、植林の必要が、治山治水の方面を主としての議論として、新聞「ラヂオ」等にて、大に宣傳せられ始めたり。「四月三日」は例年、緑地運動の植樹祭の日とせられたる旨もあり、今年同日には、天皇皇后兩陛下さへも、「稻俣千石原」にて記念の植樹を爲されたりと云ふ。
- 一、舊松本第五〇部隊跡の土地約五力坪の構内には、「兵營」設置當初に植えたる「桜桐」多数あり、花季節には「縣營運動場」の夫れと共に、松本市内に於ては、他に此類少き、櫻見場所なりしなり。構内には其他にも立本は少々存在するも、概して緑地は少し。
- 一、昭和廿一年四月、松本醫學專門學校を此地に移すことになりて以來、予は「正門見通し」の地域に「記念樹」して「欅苗」を「二列」に植えしめたり。其れ以來は、雑木たる多事に打紛れて、構内への植樹に手をつけ得ずして、昭和廿四年の春を迎へたり。

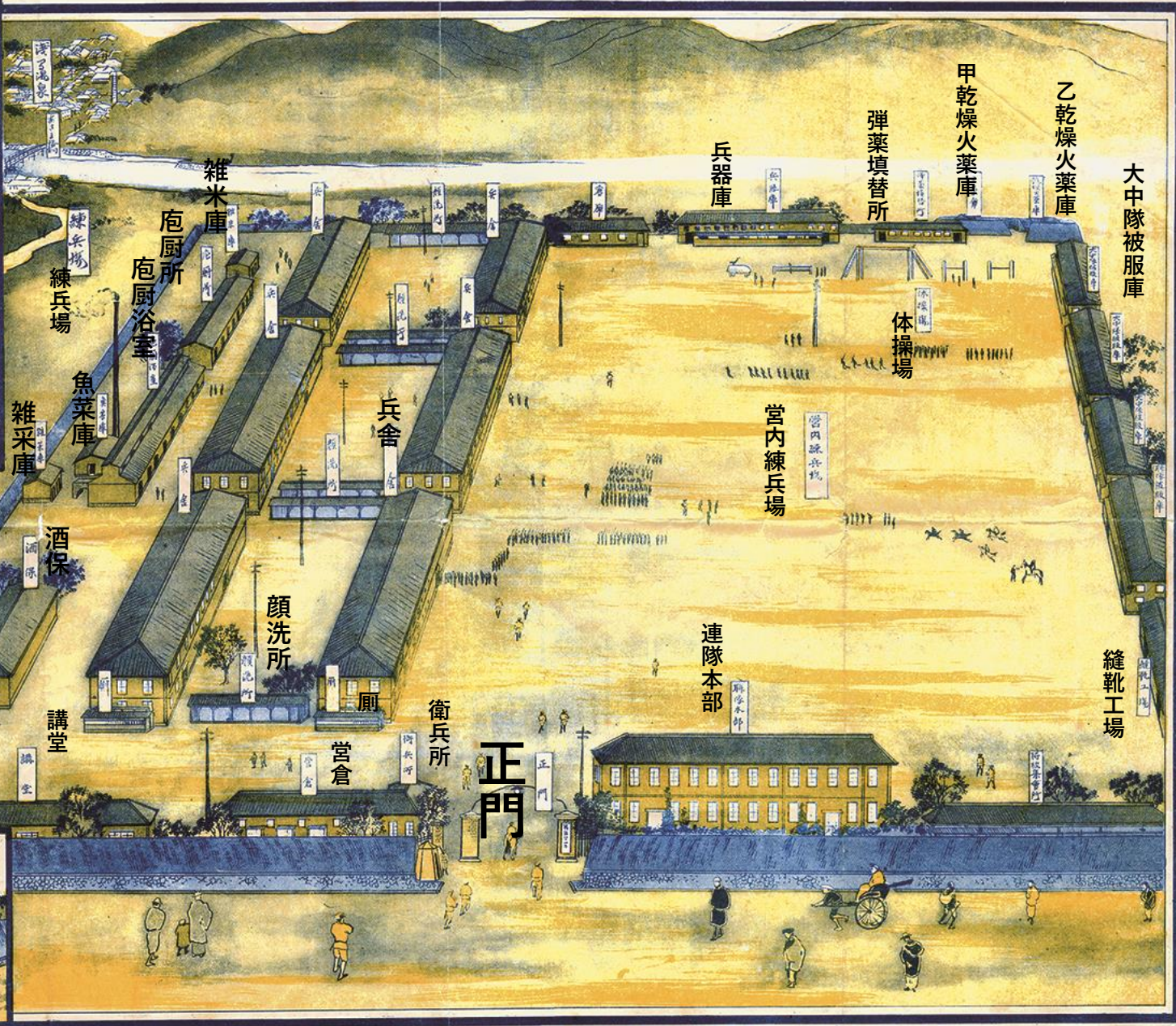
↓「正門見通し」の地域に「記念樹」
して「欅苗」を「二列」に植えしめた
り

辰野」迄は同車したり。

- 一、三月卅一日、予は文部省にて、「新制國立大學創立事務責任者」の「打合せ會」に出席し、四月一日歸松し、「四月三日」を期して、構内への「植樹」を開始せしめ、主として構内周圍堤防内側へ植付けしめたり。「四月二日」夜に陣雨あり、「三日」は晴天にて、植樹には、絶好の日柄大氣柄なりし也。

- 一、宮城氏は、作業員數名を指揮して、三―四日兩日に亘りて、一千本の苗木の内十本程を残して、全部の植付を終了し得たりと云ふ。予は四月六日午前中、宮城殿の案内にて、植付けたる場所を一巡したり。

本 松
歩兵第五十聯隊之圖



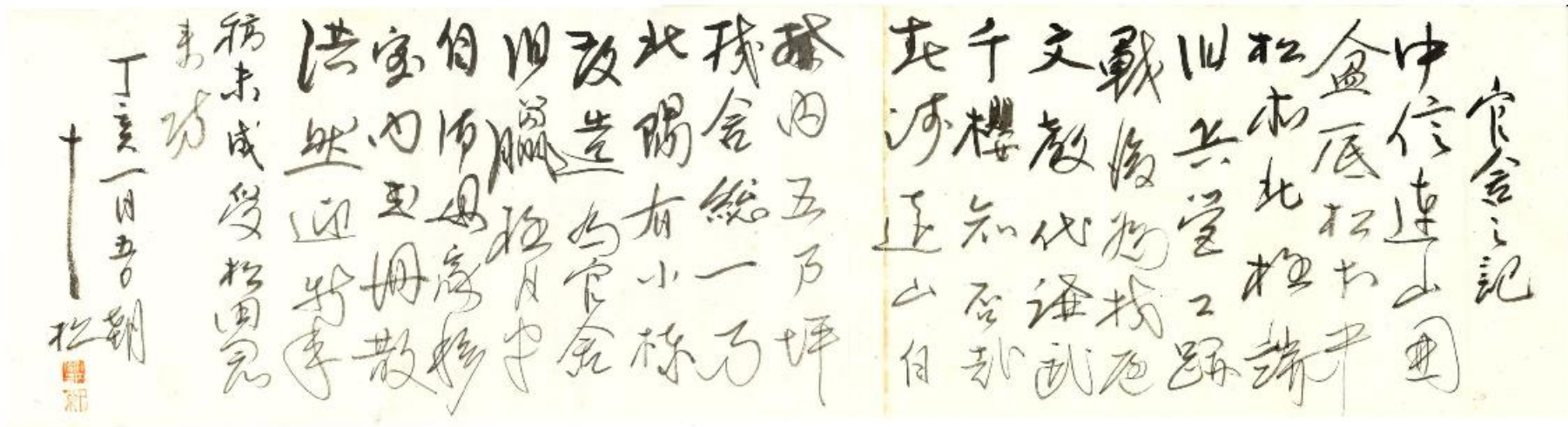
明治四十一年十月十五日印刷 松本西郷藩者刷印兼發行 西郷藩者刷印兼發行 西郷藩者刷印兼發行

明治41年

『信州松本絵葉書集成』（窪田雅之編著 書肆秋櫻舎刊）

襖裂不許

定價金五錢



竹内松次郎(1884~1977)

官舎之記
 中信連山園
 盆底松本平
 松本北極端
 旧兵營之跡
 戦後為校庭
 文教代講武
 千桜知否哉
 春河遠山白
 構内五万坪
 校舎総一万
 北隅有小棟
 改造為官舎
 旧臘極月半
 自御母家移
 室内玉冊散
 洪然迎新年

稿未成受松田君來訪
 丁亥一月五日朝
 十松

官舎之記

竹内松次郎

昭和22年(1947)1月5日
 19×74 cm
 医学部 蔵

信州大学の設立に尽力し、初代医学部長をつとめた^{たけのうちまつじろう}竹内松次郎
 (雅号：十松)直筆の書。医学部の前身である松本医学専門学校の初代校長として招かれ、構内に存在した官舎(校長宿舎)への入居に際して詠んだ漢詩。旧陸軍歩兵第五十連隊の駐屯地であった頃より有名な桜の様子とともに、無事に入居の済んだ安堵感を詠んでいる。

中信地方の連山（北アルプス）は、盆地である松本平を囲んでいる。

松本の北の端、旧兵営の跡は、戦後に校庭となり、文教が講武に代わった。

そこにあるたくさんの桜の木を知っているか。

春の川、遠くに雪をいだく山が見える。

構内は5万坪、校舎は1万坪。

その北の隅に小さな家があり、改造して官舎とした。

去年の12月半ば（15日）、御母家（おもや）より移った。

部屋の中は本の片付けもまだ終えていないが、ゆったりと、新年を迎えた。

漢詩の原稿はまだできていなかったが、松田君が尋ねてきた

丁亥（昭和22年）1月5日朝

十松

竹内松次郎 「学都松本」

1947年7月

(前略)

この部分に、1937年のドイツ ゲッチンゲンでの経験を記す)

1、明治の興隆時代に(今より約40年前のころより)、信州人が常に希望の夢にえがきたる「信州大学」は、昭和の大敗戦を待たざればその実現の緒に就く機会を与えられざりしというも、亦世界文化進歩史の「共通原則」の支配に漏れぬ一例ならんや。而も是れ「禍を転じて、福となさん」とする人生の崇高事業の一つならん。

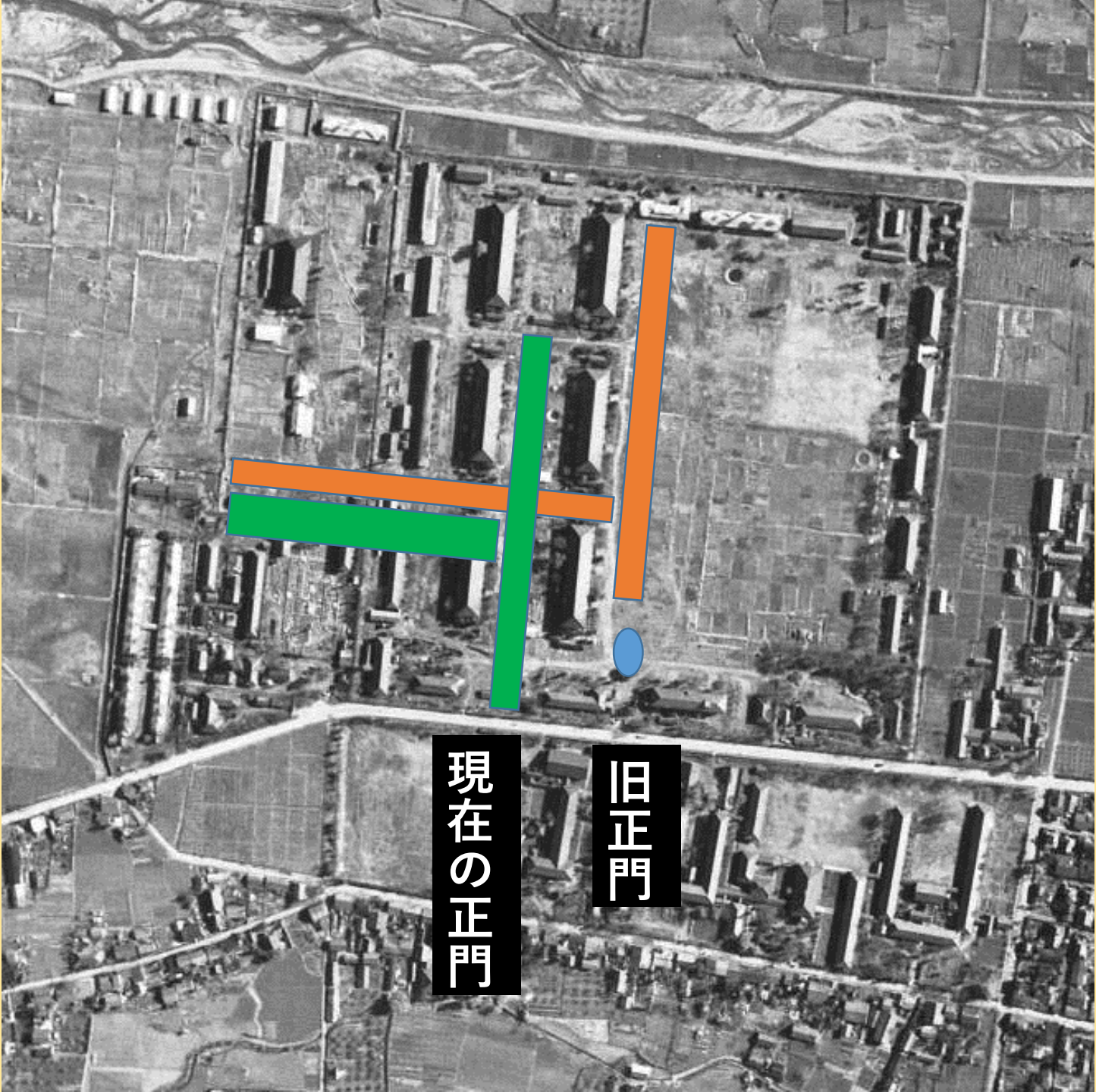
1、嗚呼、昭和19年(1944)4月創設せられたる「松本医学専門学校」が、所詮、将来の「松本医科大学」の前身たるべき「運命」を担いおりしや。「松本医科大学」の校舎に宛てらるるべき場所は、旧「松本歩兵第五十部隊」の跡なり。明治中期以来「武」の道場なりしこの場所が、「文化」の中心地となり、其「兵舎」は転じて「校舎」に改造せられ、真の「総合大学」たらんとする「因縁」は、「学都松本」のにないおる所ならずや。

1、余は、「松本医科大学」創設の時運に際会して、「松本市の歴史」「地理」、「学都としての資格要素」、「山川の風情」、将来に於ける「月沈原の学都」の如き「学都松本」の小冊子を寄稿する達筆なる「学徒」が発生せんことを期待するものなり。

而して余は、100年後に、更に200年の後、否永久に継続すべきこの「学都松本」の理想的発展進化を念願するものなり。

(昭和22年丁亥7月14日5時草此小文)

1948年米軍航空写真

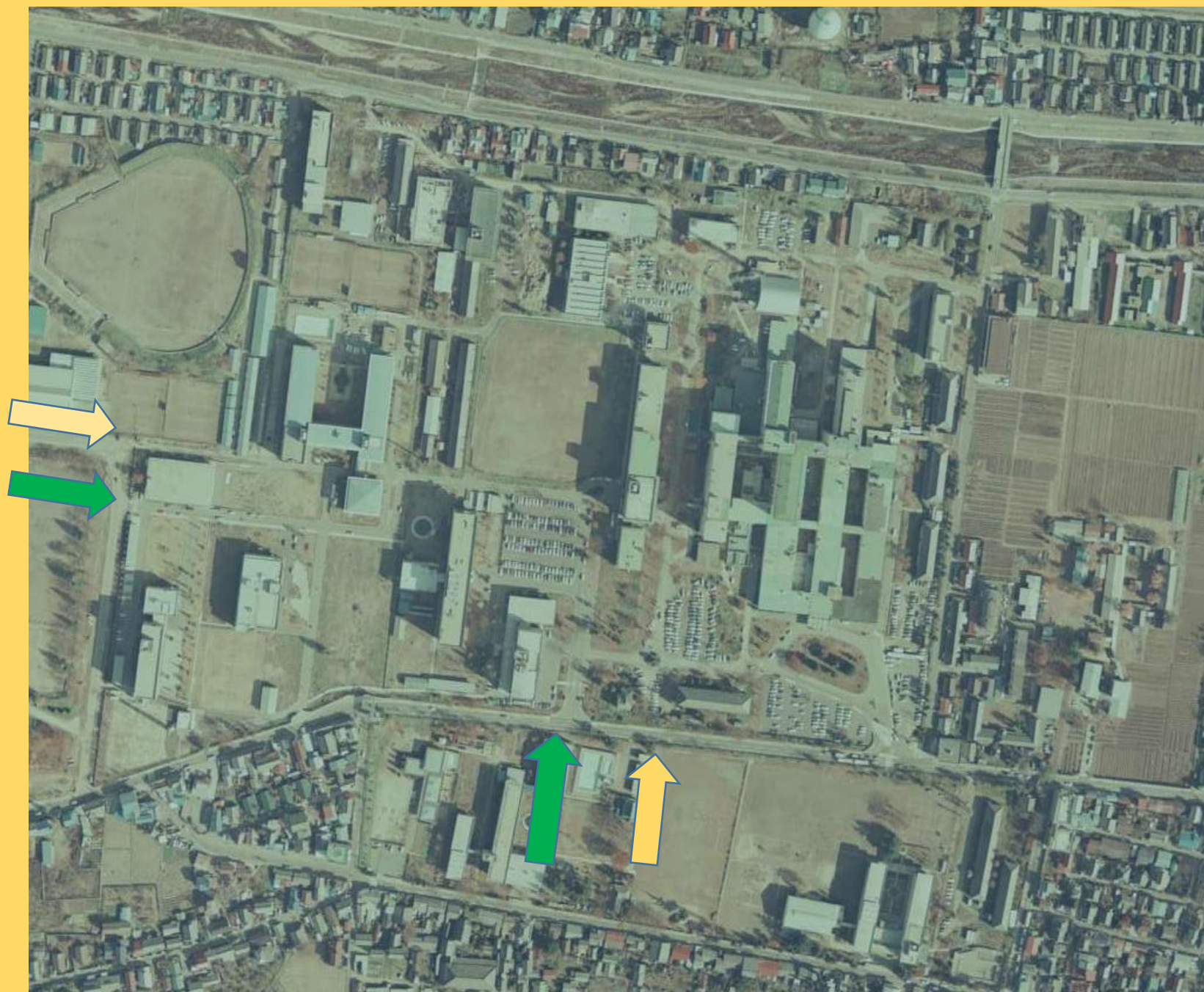


旧正門

現在の正門

1971年までの正門及びメインストリート

1971年以後の正門及びメインストリート



1975年

1963年の旭キャンパスとメインストリート



2007（平成19）年のキャンパスと旧メインストリート。

